

紬織物の試作研究

塚原 文男* 遠井 光子*

1. 緒言

近年、消費者の生活様式の変化や着物離れ等により小幅織物の需要が減少し、各産地とも低迷を余儀なくされている。

着物のフォーマル化の流れの中で、カジュアル着物である結城紬は年々減少を続け厳しい状況におかれている。産地としても需要回復のため、消費者動向にマッチしたオリジナル商品、セミフォーマル商品等の開発に努めている。

農水省蚕糸・昆虫農業技術研究所が洋装需要向けに開発した絹新素材の中、スパンローシルクは上繭から作られる網状生糸で、短繊維の集合体であることがら嵩高性と伸縮性に富んでいる。

一方、平成5年度より全国の繭検定所が行う繭の検定方式が改正される。新検定糸は上繭から作られているので糸質は良好であるが、織度差が大きいため用途がなく有効利用が望まれている。

当所では、従来これらの素材の特性を生かし、紬織物への利用方法を考えているが、昨年度につづき本年度は3点を試作したので報告する。

2. 試作内容

2.1 絹新素材の紬織物

(1) 糸使い

経糸…スパンローシルク200D×生糸27D 627T/M, S カバーリング, 生糸168D

緯糸…真綿手紡糸160D 及び140D

(2) 組織…平織

(3) 密度…63×90 本/鯨寸間

(4) 織機…高橋式小幅力織機

2.2 新検定糸の紬織物(A)

(1) 糸使い

経糸…真綿G S 手紡糸100D (芯糸)×生糸27D 437T/M, S カバーリング

新検定生糸437 T/M, Z カバーリング, 生糸168D

緯糸…真綿手紡糸160D

(2) 組織…平織

(3) 密度…63×90 本/鯨寸間

(4) 織機…高橋式小幅力織機

2.3 新検定糸の紬織物(B)

(1) 糸使い

経糸…新検定生糸×新検定生糸327T/M, Z カバーリング, 生糸168D

緯糸…真綿手紡糸160D, スパンローシルク200D

(2) 組織…平織

(3) 密度…63×90 本/鯨寸間

(4) 織機…高橋式小幅力織機

3.結果

3.1 絹新素材の紬織物

絹新素材スパンローシルクは精練すると、真綿状糸となり織度差が小さく嵩高性がある。この特徴を生かして経糸にするため、撚糸加工試験を行い毛羽立ちを少なくした。一般生糸と刷毛目使いで製織を可能とした。

スパンローシルクの嵩高性と真綿手紡糸の節を生かしたので、紬織物を高級化することができた。

また、ピリング試験の結果、スパンローシルクを使用したものと真綿手紡糸を使用した織物とは差のないことが判った。

この試作品は全国繊維技術展に出品し、全国繊維技術協会長賞を受賞した。

3.2 新検定糸の紬織物(A)

前年度は、新検定糸の複合糸を厚地織物経糸の節糸に使用し高級感が表現できたので、今年度は、着尺地の経糸に一般生糸と刷毛目に使用し試織した。

経糸に使用した新検定複合糸の織度差と、緯糸の真綿手紡糸から出る節を生かすことができた。

この試作品は全国繊維技術展に出品し、全国繊維技術協会長賞を受賞した。

3.3 新検定糸の紬織物(B)

新検定糸の撚糸加工試験を行い織度差を小さくし、一般生糸と刷毛目使いで試作した。緯糸にスパンローシルク、真綿手紡糸を使用し、経糸の柔らかい筋、緯糸の嵩高性を生かした高級紬着尺を表現できた。

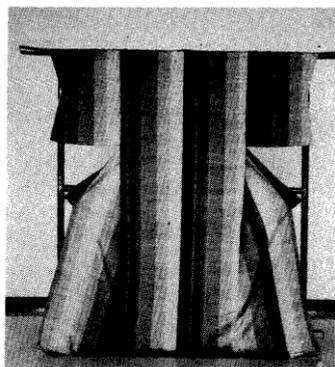


図1 絹新素材の紬織物

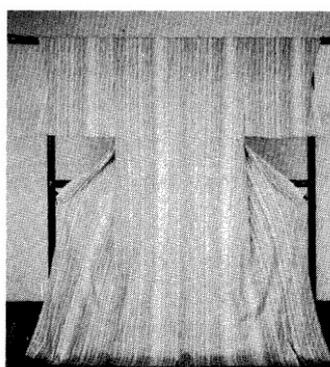


図2 新検定糸の紬織物(A)

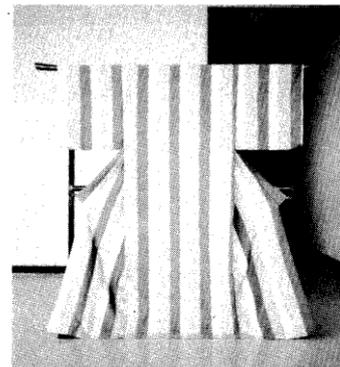


図3 新検定糸の紬織物(B)